

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	15-076	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Comorbidity of fetal alcohol spectrum disorder: a systematic review and meta-analysis. 胎児性アルコール・スペクトラム障害の併存症：系統レビューとメタ解析		
執筆者		
Popova S, Lange S, Shield K, Mihic A, Chudley AE, Mukherjee RA, Bekmuradov D, Rehm J.		
掲載誌		
Lancet. 2016 Mar 5;387(10022):978-87. doi: 10.1016/S0140-6736(15)01345-8		
キーワード		PMID
胎児性アルコール、スペクトラム障害		26777270
要 旨		
<p>目的：胎児性アルコール・スペクトラム障害(FASD)は、胎児期のアルコール曝露による永続的影響のため様々な併存症と関連している。本研究ではこれらの併存症を同定し、胎児性アルコール症候群(FAS)患者における、併存症の統合推定有病率を算出する。</p> <p>方法：複数の電子データベースを用い、2012年7月までに発表されたFASD患者の併存症・死因に関する文献を系統的に探索した。査読有の英文雑誌に掲載された原著論文を含めた。各研究の質の評価には以下の基準を用いた：確立されたFASDガイドラインに基づく診断を用いているか、研究デザイン、データ収集方法、対象者数。全ての併存症は国際疾病分類10版(International Classification of Diseases,10th revision [ICD-10])によりコード化した。統合された有病率の推定には、ランダム効果モデルによるメタ解析を行った。</p> <p>結果：5,068の候補研究のうち、127が組み入れ基準を満たしていた。それらの研究から、428種のFASD併存症を同定した(ICD10の18から22章に渡っていた)。最頻の併存症は先天性奇形、欠損、染色体異常、精神・行動障害の範疇に属していた。33の研究が1,728のFAS患者における併存症の頻度を報告していた。併存症で頻度が高かった5つは、末梢神経および特殊感覚機能(検査)の異常、行為障害、受容言語障害、慢性漿液性中耳炎、表出性言語障害であった。</p> <p>結論：FASD患者では、併存症有病率が高いことが明らかになった。この結果は、併存症の危険因子として出生前にアルコール曝露評価を行う事の重要性を意味している。発生段階の胎児にとって(母体の)アルコールの有害性は、FASD併存症が逆に予防可能であることを意味している。したがって妊娠期の母体のアルコール摂取は全世界の公衆衛生上の問題として認識されるべきである。</p>		